

# 鉄鋼新経営

## 2020年以降を見据えて

まず足元の経営環境認識は。

2018年12月期は増収減益。品種構成の変化と原料の値上がり影響が格好だが、利益水準は悪くない。一過性の要因が利益を押し下げた側面もあり心配していない。足元は中国の減速が影響し、インバー合金(低熱膨張合金)の用途である半導体製造装置関連が落ちている。有機EL・液晶などフラットパネル・ディスプレイ(LED)関連も弱くなっており、今期は各需要分野が調整局面となる中で減収減益の見通し。一方、AI

やIoTの加速で半導体需要が成長する。この長期トレンドは変わらざるを得ない。一憂は30年中期経営計画の最終年度で、20年度の目標(売上高100億円)も視野に、次

が、参加者が学んだことを社内持ち帰り良い部分を定着できれば、また、このほど技術系の若手社員が東京工業大学大学院に入学して2人目となる博士

が、参加者が学んだことを社内持ち帰り良い部分を定着できれば、また、このほど技術系の若手社員が東京工業大学大学院に入学して2人目となる博士

課程修了を目指している。財務基盤については、計画通りの盤石化している。三重工場の設備投資を行いつつも、手元資金は増やせており「守りと攻め」を高

「研究開発の動向」について。「高騰する原料への対策が大きなテーマだ。副原料であるコバルトは今後、燃料電池車の普及に伴い需給バランスが見込まれ価格

も高騰する可能性がある。省コバルトでかつ性能を向上できる研究開発を実施している。3D積層造形関連では、合金の開発を行うなど基礎段階ではあるが着手している。研

「次の10年に向けて」

「宇宙ビジネス。天

文学分野でもまだまだ需要を掘り起こす余地があり、具体的に取

# 原料高騰対策で研究推進



新報国製鉄社長 成瀬 正氏

究を進めた上で設備が必要段階となった場合に合わせた適切な投資を行う考えだ。製造シミュレーションの威力はかなりの上がついていく。品質を改善するポイント向け消耗品で実

「半導体・有機EL関連への依存度の高さが課題で、改善に向けた新規分野の需要を開拓する販売促進チームを4月から新設する。技術にも通じた役員を専任にして、耐熱や耐磨耗、耐腐食などの特性を持つ機能材の拡販を図る。具体的なものは、バイオマス発電ポイラ向け消耗品で実

# 3D用合金開発にも着手

「宇宙ビジネス。天文学分野でもまだまだ需要を掘り起こす余地があり、具体的に取

日刊産業新聞 19・3・7